

澤村胡夷と台湾警察歌（第十一次改訂稿）

—日本統治下台湾警察史の一齣—

令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）現在

（補正経緯）

- 初稿：平成 15（2003）年 1 月 15 日作成
- （HP 初載）：第一次改訂稿：平成 19（2007）年 8 月 4 日作成
第二次改訂稿：平成 19（2007）年 12 月 9 日作成
第三次改訂稿：平成 20（2008）年 1 月 28 日作成
第四次改訂稿：平成 20（2008）年 1 月 31 日作成
第五次改訂稿：平成 24（2012）年 1 月 21 日（土）作成
第六次改訂稿：平成 24（2012）年 9 月 20 日（木）作成
第七次改訂稿：平成 26（2014）年 7 月 5 日（土）作成
第八次改訂稿：平成 26（2014）年 9 月 9 日（火）作成
第九次改訂稿：平成 28（2016）年 4 月 3 日（日）作成
第十次改訂稿：平成 29（2017）年 9 月 20 日（水）作成
第十一次改訂稿：令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）作成

〔凡 例〕

・本稿は、最初『台湾協会報』第 580 号（平成 15（2003）年 1 月 15 日刊）に掲載し、その後、『鷺巣敦哉とその時代〔特別収録〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第一輯）—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯—』（平成 15 年 8 月 1 日刊）に再録したものに、改訂を加えつつあるものである。

・脚注は、すべて初稿時にはなかったもので、その後に付したものである。また、格別新たな事実については、取りあえず、（補説）として記載している。

・平成 26（2014）年夏刊行の『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）解説中「参考資料 1 台湾警察歌」（297～300 頁）で、その時点での大要を収録した。（本項：平成 26 年 9 月 9 日追加）

・主たる改訂経緯は、以下のとおりである。なお、微細な修正については、一々記していない。（澤村胡夷、沢村胡夷、澤村専太郎、沢村専太郎）

- ・初稿：平成 15（2003）年 1 月 15 日作成
- ・HP 初載：第一次改訂稿：平成 19（2007）年 8 月 4 日作成：（補説 1）追加。
- ・第二次改訂稿：平成 19（2007）年 12 月 9 日作成：（補説 2）追加。
- ・第三次改訂稿：平成 20（2008）年 1 月 28 日作成：（補説 3）追加、註『警務彙報』（朝鮮警察協会刊）第 274 号（昭和 4 年 2 月号、同年 2 月 15 日刊）関係記事追加。
- ・第四次改訂稿：平成 20（2008）年 1 月 31 日作成：（補説 1）、（補説 2）及び（補説 3）

を整理、修正。

- ・第五次改訂稿：平成 24（2012）年 1 月 21 日作成：『U7』第 39、40 号（学士会、平成 23 年 8、10 月刊）掲載論稿記事を追加、その他一部補正。
- ・第六次改訂稿：平成 24（2012）年 9 月 20 日作成：一部補正。
- ・第七次改訂稿：平成 26（2014）年 7 月 5 日作成：「（補説 4）「台湾警察歌」検討文献抄」追加。内容は、従来の「2 澤村胡夷作詞の経緯」及び（補説 1）中の関係註を移行するとともに、下道郁子氏「台湾警察歌と澤村胡夷」『台湾協会報』（前編：『台湾協会報』第 714 号（平成 26 年 3 月 15 日刊）、後編：同第 715 号（平成 26 年 4 月 15 日刊））の件に言及したもの。その他一部補正。
- ・第八次改訂稿：平成 26（2014）年 9 月 9 日作成：『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書（続）・雑誌所収著作補遺（続）・索引』（緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊）刊行に伴う一部補正。
- ・第九次改訂稿：平成 28（2016）年 4 月 3 日作成：「（補説 5）「台湾警察歌」収載 CD 関係記事」追加。内容は、台湾で 2011 年に「台湾警察歌」収載 CD が刊行されたことに言及したもの。
- ・第十次改訂稿：平成 29（2017）年 9 月 20 日作成：上記「（補説 5）「台湾警察歌」収載 CD 関係記事」に「台湾警察歌」中文訳を追加。
- ・第十一次改訂稿：令和 4（2022）年 7 月 26 日（火）作成：レイアウト全面変更、一部補正、追加。

（参考）

- ・本稿に関連して、下記本 HP 別稿各参照。
 - ・「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について
—日本統治下台湾警察史の一齣—
<<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>>
 - ・「台湾警察歌」の作曲者一條慎三郎氏の御業績を巡って—一條元美氏の御長逝を悼みて— <<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>>
- ・以前、パーロホン関係の何かの資料で、「台湾警察歌」のことに言及していたのを見た記憶があるが、遺憾ながら失念した。追って再調査の予定でいる。

〔目 次〕

1 台湾警察歌の制定 ……………	3
2 澤村胡夷作詞の経緯 ……………	4
3 台湾警察歌歌詞 ……………	6
（補説 1）ヤフーオークションでの澤村胡夷作詞「台湾警察歌」レコード関係記事 ……………	7
（補説 2）その後インターネット掲載の「台湾警察歌」レコード関係記事 ……	8
（補説 3）「台湾警察歌」及び「蕃界警備壮夫の歌」のネット公開 ……………	9
（補説 4）「台湾警察歌」検討文献抄 ……………	10
（補説 5）「台湾警察歌」収載 CD 関係記事 ……………	11
（附録）本 HP 掲載「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」等関係諸稿……………	12

1 台湾警察歌の制定

台湾では日本統治下五十年（1895～1945）において、多くの校歌、寮歌、記念歌の類が作られ、それらの一部は、かつて『台湾協会報』¹に連載された²が、その中でも、当代一流の文人の手になるもので、名歌の一つと思われるのが、澤村専太郎作詞、一條慎三郎作曲に係る「台湾警察歌 雲ふきはらふ新高の」である（下記「3 台湾警察歌歌詞」参照。）。澤村専太郎（1884～1930）³は、元京都帝国大学文学部教授の日本、東洋美術史家、雅号を胡夷といい、若き日は詩人として名を馳せ、詩集に『湖畔之悲歌』（京都・河合卯之助、明治 40 年 1 月刊）があるが、なによりも、第三高等学校逍遥の歌「紅もゆる」（明治 38 年作）の作者として著名である（例えば『神陵史－第三高等学校八十年史－』（三高同窓会、昭和 55 年 3 月 31 日刊）471 頁以下参照。）。

その澤村が何故に台湾警察歌を作詞したかについては、旧台湾警察関係者には周知の事かもしれないが、ここではそれはさておき、歌そのものは、一般には、有名な『台湾総督府警察沿革誌』の『第三編警務事績編』（昭和 9 年 12 月 17 日刊）が昭和 61（1986）年

¹ 一般財団法人台湾協会の機関誌である。同協会は、平成 24（2012）年 7 月 4 日に所蔵図書目録をネット公開された。寔に貴重である。〈<http://www.taiwankyokai.or.jp/>〉（平成 24 年 9 月 20 日追加）⇒その後視聴覚資料目録も追加公開されている。（平成 29 年 9 月 20 日追加）

² これらについては、夙に武田實編集『台湾校歌集－われらが心の母校の記念碑として－』（吉里邦夫序文、自己出版、昭和 62 年 6 月刊）があり、最近では、台湾の HP「古い記憶のメロディ」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉中の「台湾の校歌其他」が特に詳しい。

³ 「澤村胡夷」：〈<http://www.urban.ne.jp/home/festa/sawamura.htm>〉（平成 24 年 1 月 21 日追加）

（肖像）：

〈http://archives.cf.ocha.ac.jp/exhibition/1825/m_ph_1825-0065.html〉

〈http://archives.cf.ocha.ac.jp/exhibition/388/a_ph_388-0091.html〉（澤村胡夷、沢村胡夷、澤村専太郎、沢村専太郎）（平成 24 年 9 月 19 日追加）

9月30日に緑蔭書房より復刻されて、初めて知られた（1187、1188頁。）⁴

筆者もそれ以来関心を有していたが、澤村の遺著『日本絵画史の研究』（京都・星野書店、昭和6年9月15日刊）⁵に付けられた著作目録（12頁⁶）で、同氏が台湾警察歌ができた昭和3（1928）年末に在台していたことがわかり、また、澤村の周到な研究書である大嶋知子氏（1944～）編『澤村胡夷全詩集』（中央公論事業出版、昭和42年3月3日刊）にも、台湾での講演時に「紅もゆる」の大合唱で迎えられたとの逸話の紹介（4頁）があることから、この在台時に何らかの関係があったのではと思料されてはいたが、何故に澤村が作詞したのか詳細は不明であった。

そうした中、平成10（1998）年に中島利郎教授（1947～）により『『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』（緑蔭書房、平成10年8月25日刊）⁷が出されたことにより、『台湾警察協会雑誌』第137号（昭和3年11月25日刊）に「懸賞募集台湾警察歌当選発表」、同第139号（同4年1月1日刊）に「台湾警察歌の制定」なる関係記事がそれぞれ掲載されていることが判明し、漸く手がかりを得るにいたった。あるいは『台湾日日新報』を丹念に調べれば何か出ているのかも知れないが、そこまではしていない。

2 澤村胡夷作詞の経緯

しかして、今般（平成14（2002）年秋）、思いがけず中島教授より国内では読めないと思われていた上記二稿の写しをいただけたことにより、その内容が判明した。また、大嶋氏からも澤村について貴重な御教示を賜った。中島教授及び大嶋氏の御厚情に深甚の謝意を表する次第である。ついで、以下、資料的観点から、その要旨を紹介しておきたい。

昭和3（1928）年秋、督府警務局が警察歌を公募したが、多数の応募があり、その選者を検討したところ、偶然澤村が視学講習会講師として来台していたので、同氏に審査を委

4 ここでは、「昭和三年末警務局に於ては、台湾警察歌制定の目的を以て広く一般より歌詞の募集を行ひたるも遂に第一等として当選と認むべきものを得るに至らず、更に京都帝国大学教授〔マ、当時は助教授か。〕澤村専太郎に作成を依頼し、之を台北第一師範学校教諭〔マ、当時は専任職は辞職か。〕一條慎三郎に委嘱して作曲したるものを以て台湾総督府警察歌に決定し各州庁に其旨通達する処ありたり。歌詞次の如し」とした上で、歌詞と数字符による曲譜を掲載しているが、澤村に歌詞作成が依頼された経緯については触れていない。（平成24年1月21日一部補正）

5 グーグルブックス『日本絵画史の研究』（平成24年9月20日追加）

<http://books.google.co.jp/books?id=VLTuQsOubxkC&printsec=frontcover&dq=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%B5%B5%E7%94%BB%E5%8F%B2%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6&source=bl&ots=njFifW92L0&sig=FeyXDIqRBKRkVYxSo0boVdU9oM&hl=ja&sa=X&ei=NUNZUI2uOMuQiQfTwoGwAg&ved=0CDcQ6AEwAA#v=onepage&q&f=false>

6 「日本画壇の現勢」（『台湾日日新報』昭和3年11月）を記載している。（平成24年9月20日追加）

7 両誌は、一時期台湾で復刻されるといわれたが、最終的には、国立中央図書館台湾分館（現国立台湾図書館）所蔵本を基に、マイクロ資料「『台湾警察協会雑誌』第1号～149号（大正6年～昭和4年）、『台湾警察時報』第1号（通巻第150号）～第335号（昭和5年～昭和18年。昭和5年より『台湾警察時報』に改名。欠号、第326～328号）28リール16mm 国立中央図書館台湾分館員工消費合作社2002年刊（日本代理店）雄松堂」として刊行された。

嘱し得た。選考の結果、力作は多いものの、将来長く歌い続けていくだけの価値のあるものはないとして、一等は選ばれず、二等（2篇）、三等（7篇）、佳作（7篇）を選び、それぞれ澤村の添削を加えて、上記『台湾警察協会雑誌』第137号に発表し、警察歌そのものは澤村に作詞を改めて依頼したというものである。それを受けて、同氏が作詞し、台北第一師範学校の一條慎三郎（1870～1945）が作曲したものが、正式に警察歌として選定されて、その旨各州庁に通牒が発せられたが、上記『台湾警察協会雑誌』第139号は、これを掲載した⁸。

なお、一條については、未だ詳しく調べていないが、同氏は、警察関係では、「蕃界丈夫の歌」（元澎湖、台東両庁長本間善庫（1885～1960、戦後福島県郡山市長）⁹作詞）の作曲もしているという¹⁰。

その後、終戦にいたるまで、本警察歌は、台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌の「椰子の実みのる」（昭和2（1927）年春制定。）¹¹とともに、台湾の警察で歌われたのであ

⁸ 朝鮮総督府警察の機関誌ともいえる『警務彙報』（朝鮮警察協会刊）第274号（昭和4年2月号、同年2月15日刊）141頁は、上記『台湾警察協会雑誌』第139号（昭和4年1月1日刊）掲載記事を、ほぼ転載している（本註：平成20年1月28日追加）。

⇒（追記）『警務彙報』については、下記本HP別稿「『警務彙報』（財朝鮮警察協会刊）発行表」参照。（<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/keimuihou.pdf>）（平成24年1月21日追加）。

⇒（追記）なお、緑蔭書房より近く『警務彙報』の総目録が刊行予定とのことである。（平成26年7月5日追加）。

⁹ 本間善庫については、戦前の台湾人名録の類に詳しい。なお、台湾のHP「国家文化資料庫」<http://nrch.cca.gov.tw/ccahome/index.jsp>をも参照。（平成24年1月21日一部修正）。加えて、近年台湾で「台湾総督府（官）報資料庫」<http://db2.lib.nccu.edu.tw/view/>がネット公開され、検索の便が飛躍的に向上した。（平成24年1月21日追加）

¹⁰ 一條慎三郎については、「一條慎三郎について—日本統治下台湾音楽史の一齣—」『台湾協会報』第586号（平成15年7月15日刊）参照。同稿は、『鷺巣敦哉とその時代〔特別収録〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第一輯）—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯—』（平成15（2003）年8月1日刊）に再録。なお、その後、旧台北第一師範学校同窓会報『芝山』第15号（平成16年12月15日刊）に、「一條慎三郎先生を偲ぶ」関係論稿7編が掲載されたが、先頃刊行の岡部芳広（1963～）『植民地台湾における公学校唱歌教育』（明石書店、平成19年2月28日刊）166頁以下にも一條に関する詳しい記載がある。近年日台両地で一條の再検討が始まっているようである。⇒（追記）本HP別稿「「台湾警察歌」の作曲家一條慎三郎氏の御業績を巡って—一條元美氏の御長逝を悼みて—」参照。（追記部分：平成24年9月20日追加）<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>

¹¹ 同所歌については、「台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌一斑—「椰子の実みのる」をめぐって」『台湾協会報』第594号（平成16年3月15日刊）及びその改訂稿「「椰子の実みのる」をめぐって—台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌覚書—」『鷺巣敦哉とその時代（続集（写真・資料篇））』（平成15（2003）年11月1日刊）参照。なお、その制定経緯については北沢勇（昭和2年春練習所乙科入所）「練習所生活の思い出」『新竹警友会報』第53号（昭和55年3月10日刊）が貴重である。なお、両所歌については、本HP掲載別稿「台湾総督府警察官及司獄官練習所所歌覚書—「椰子の実みのる」及び「彩

った¹²。

澤村は、昭和 4（1929）年末頃から体調を崩し、翌昭和 5（1930）年 5 月 23 日には遂に逝去するので、本警察歌は、同氏の最後あたりの歌かとも思われ、澤村胡夷研究上も重要な意味を持つと思われる。

いずれにせよ、台湾警察歌の作者に「紅もゆる」の澤村胡夷を持てたことは、単に警察史のみならず、日本時代台湾文化史上特筆すべきことであり、この事実は長く伝えていかなければならない¹³。

3 台湾警察歌歌詞

以下の台湾警察歌歌詞は、上記『台湾警察協会雑誌』第 139 号（昭和 3 年 1 月 1 日）12 頁に掲載のものである。ただし、漢字は常用漢字を使用した。ルビも上記『台湾警察協会雑誌』掲載歌詞による。一條慎三郎の曲譜は、同誌 13 頁に掲載されている。（追記）台湾警察歌歌詞の中文訳については、後掲「（補説 5）「台湾警察歌」収載 CD 関係記事」参照。（平成 29（2017）年 9 月 20 日追加）

台湾警察歌

作歌 澤村専太郎氏 作曲 一條慎三郎氏

- (1) 雲（くも）ふきはらふ新高（にひたか）の
嶺（みね）の威霊（ゐれい）にまもられて
正義（せいぎ）のすがた巖（おごそ）かに
わがゆく路（みち）は分明（さやか）なり
- (2) 緑翠（りよくすゐ）四時（しじ）にかほりなき
仁慈（じんじ）のまこと身（み）にとめて
別俗異種（べつぞくいしゅ）をけぢめせぬ
治安（ちあん）のつとめ保護（ほご）のせめ
- (3) 蕃雲（ばんうん）くらく月おちて
影（かげ）ふみまどふ谿（たに）のみち
回帰（くわいき）の標（しるし）日（ひ）にこげて
苦熱（くねつ）に喘（あえ）ぐ野（の）べのはて

雲めぐる」をめぐって——日本統治下台湾警察史の一齣——」（初稿：平成 15 年 11 月 1 日、改訂稿：平成 19 年 8 月 6 日、再訂稿：平成 23 年 9 月 7 日各作成）参照。（平成 24 年 1 月 21 日一部修正）

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/renshushouta.pdf>

¹² 現在、メロディーだけは、上記台湾の HP「古い記憶のメロディー」<http://www.geocities.jp/abm168/>中「台湾の校歌其他」で聴くことができる。

¹³ （補説 4）「台湾警察歌」検討文献抄」参照。（平成 26 年 7 月 5 日修正）

(4) 疫癘（えきれい）しげき熱国（ねつく）の
まもる術（すべ）なき民（たみ）の門（かど）
身をいけにへに掲（かか）げたる
あゝ防疫（ぼうえき）のきよき旗（はた）

(5) すさぶ思想（しさう）の世（よ）のなみに
至純至誠（しじゆんしせい）のみあかしを
高（たか）く捧（さゝ）ぐる南海（なんかい）の
われらは平和（へいわ）の司（つかさ）なり

（補説 1）

ヤフーオークションでの澤村胡夷作詞「台湾警察歌」レコード関係記事

1 平成 18（2006）年 11 月のヤフーオークション（平成 19 年 8 月 4 日追加）

（以下は、『鷺巣敦哉とその時代（第三続編）—日本統治下台湾警察史雑纂第一～三輯合冊その他—日本統治下台湾警察史雑纂第七輯一』（平成 19（2007）年 3 月 31 日刊）「刊行の栞」掲載稿に、一部補正を加えたものである。）

二昔も前の昭和 61（1986）年 9 月に、緑蔭書房から『台湾総督府警察沿革誌』（全五巻、I～V）が復刻された時、全体を流し読みしていて吃驚したことは、V（1187 頁）に、澤村専太郎作詞、一條慎三郎作曲「台湾警察歌」（昭和 3（1928）年末制定）を見い出したことであった。澤村専太郎（1884～1930）といえば、「紅もゆる」（明治 38 年作）で有名な澤村胡夷その人であり、その澤村が何故に「台湾警察歌」を作詞したのかが、かつて「幻の書」とまでいわれた『第二編領台以後の治安状況（中巻）台湾社会運動史』（Ⅲ）（ただし本巻のみそれ以前に 2 回復刻あり。）の検討という日本統治下台湾警察史上最も重要なテーマを外れて、長く主たる個人的関心事となった。

しかし、当時は国内だけの調査ではまったく解明できず、残念に思っていたところ、平成 10（1998）年に中島利郎・林原文子両氏共編『『台湾警察協会雑誌』『台湾警察時報』総目録』（緑蔭書房、平成 10 年 8 月 25 日刊）が出て、初めて解決の目処がたち、次いで、平成 14（2002）年秋に、中島利郎先生より、台湾所在の『台湾警察時報』第 137 号（昭和 3 年 11 月刊）、同第 139 号（昭和 4 年 1 月刊）の関係記事の写しを頂戴できて、漸く判明した次第である。早速、その一端を「澤村胡夷と台湾警察歌」『台湾協会報』第 580 号（平成 15 年 1 月 15 日刊）で紹介した¹⁴が、その際、併せて作曲者一條慎三郎（1870～1945）に関しても、「一條慎三郎について—日本統治下台湾音楽史の一齣—」『台湾協会報』第

¹⁴ 更に補訂の上、『鷺巣敦哉とその時代〔特別収録〕：『鷺巣敦哉著作集』補遺続集（第一輯）—日本統治下台湾警察史雑纂第四輯一』（平成 15 年 8 月 1 日刊）94 頁以下に収録した。

586号（平成15年7月15日刊）で言及し得た¹⁵。これらも、ひとえに、中島先生の御厚意の賜物であり、深く感謝しているところである。

その後、時は移り、昨平成18（2006）年11月に、ヤフーオークションで「台湾警察歌」のレコード（パーロホン〈パルロフォン〉レコード）が出品されたのを知って、再度驚いた。これに関しては、本輯（〈雑纂第7輯〉198頁）で簡単に触れておいたが、いつかレコード自体を是非とも聞いてみたいと願っている。

澤村胡夷研究については、夙に大嶋知子氏の古典的ともいえる御著作¹⁶があるが、最近では、三高同窓会有志の諸氏が精力的に調査をされている¹⁷。この他、詳しくは述べないが、一、二新たな研究の動きもある。「台湾警察歌」は、澤村最後の詩作（同氏は昭和5年5月23日逝去）ともいべきものであり、その意味で、今後更に研究されてよいものと思われる¹⁸。しかるに、このヤフーオークションの記事は、現時点では、もう既にネット上では検索できなくなっていることから、台湾警察史検討上はもとより、今後の澤村胡夷研究のためにも、この事実を残しておきたく、以下に、当該オークション記事を収録しておくこととする。資料的意義でも持てれば、幸いこれに過ぎることはない¹⁹。

2 平成19（2007）年12月のヤフーオークション（平成20年1月31日追加）

その後、平成19（2007）年12月下旬のヤフーオークションにも、同じ「台湾警察歌」のレコード（パーロホン〈パルロフォン〉レコード）が出品された。その状況は、以下のとおりである。なお、断定はできないが、下記（補説3）に誌したネット公開の時期その他との関係からして、このヤフーオークションに出品された当該レコードが翌平成20年すぐ公開された可能性が強いものと考えられる。

〈<http://page5.auctions.yahoo.co.jp/jp/auction/e75840521>〉（平成24年1月21日現在無効）

「オークション 開始時刻日時：平成19年12月24日18時47分、終了日時：平成19年12月27日21時47分、出品地域：山口県、開始価格：1,500円、落札価格：16,800円」

（補説2）

¹⁵ これも、上記第四輯97頁以下に再録した。なお、一條の研究については、本稿註7参照。

¹⁶ 大嶋知子氏『沢村胡夷全詩集』（中央公論事業出版、昭和42年3月3日刊）

¹⁷ HP「三高私説」〈<http://www2s.biglobe.ne.jp/~tbc00346/component/>〉参照。（平成24年1月21日追加）

¹⁸ （補説4）「台湾警察歌」検討文献抄」参照。（平成26年7月5日修正）

¹⁹ 諸般の事情から、ここでは、当該オークション記事そのものは収録していない。（本註：平成19年8月4日追加）

その後インターネット掲載の「台湾警察歌」レコード関係記事

(平成 19 年 12 月 9 日追加、平成 20 年 1 月 28 日修正、平成 24 年 1 月 21 日修正)

その後のインターネット掲載関係では、詳しいことは不明であるが、注目すべきものとして、HP「音願指針蓄音機 S P レコード骨董辺境の旅」(開設日: 2007/3/2 (金)、下記アドレスは同年 6 月 20 日〈金〉午後 6 時 20 分増設か。) ²⁰がある。すなわち、[〈http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/10230679.html〉](http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/10230679.html)(平成 24 年 1 月 21 日現在無効)に、「8. パーロホン NO.E1939 1932 年 11 月発売 A 面「台湾警察歌」澤村専太郎詞 一條慎三郎曲 田村猛雄 B 面「蕃界警備壮夫の歌」本間善庫詞 一條慎三郎曲 山田道雄・東京セレネーダス合唱団」の記載があるものである。当初は画像を見ることができなかった(最終確認: 平成 19 年 12 月 9 日閲覧時点)が、その後、平成 20 年 1 月 2 日(水)午後 7 時 24 分に、ここに画像が掲載され、かつ、同日午後 7 時 31 分に、下記(補説 3)と同じように、歌が聞けるようになったようである。ネット知識に疎くてよくわからないが、これは、おそらくや下記(補説 3)と同じものである可能性が高い。

また、上記台湾の HP「古い記憶のメロディー」[〈http://www.geocities.jp/abm168/〉](http://www.geocities.jp/abm168/)上の「ゲストブック」^⑱、^⑲(平成 19 年 6 月 15 日～22 日、ヤベ氏〈葉雪淳氏²¹、1930～2011〉、KMT 氏及び山田三郎氏のやりとり)中の同年 6 月 21 日付け KMT 氏の記載によれば、同氏もまた「台湾警察歌」のレコードを御所蔵のようである²²。

(補説 3)

「台湾警察歌」及び「蕃界警備壮夫の歌」のネット公開

(平成 20 年 1 月 28 日追加、1 月 31 日修正、平成 24 年 1 月 21 日修正)

平成 20 (2008) 年 1 月 2 日(水)午後 4 時 23 分、「MOVIE CASTER」(ムービーキャスター)に、上記「パーロホン 1932 年 11 月発売 A 面「台湾警察歌」澤村専太郎詞 一條慎三郎曲 田村猛雄・東京セレネーダス合唱団」が、「tony」氏によりネット公開された。寔に貴重なことである。

先にも誌したように、ネット知識に疎くて不確かではあるが、掲載日時その他からして、

²⁰ 平成 24 年 1 月 21 日現在では、2008/1/2 午後 7:24 のものがアップされている。

[〈http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29542875.html〉](http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29542875.html) また、「蕃界警備壮夫の歌」は、2008/1/2 午後 7:37 のものである。[〈http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29543479.html〉](http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29543479.html)。(平成 24 年 1 月 21 日追加)

²¹ 葉雪淳氏の御長逝につき、同「ゲストブック」2011 年 11 月 13 日(日)00 時 12 分 06 秒の三田裕次氏記載等参照。(平成 24 年 1 月 21 日追加)

²² 同「ゲストブック」^⑲中の「2007 年 6 月 22 日(金) 23 時 38 分 32 秒 [名前]: KMT」で、KMT 氏は、[コメント]中に、レコード「8. パーロホン NO.E1939 1932 年 11 月発売 A 面「台湾警察歌」澤村専太郎詞 一條慎三郎曲 田村猛雄 B 面「蕃界警備壮夫の歌」本間善庫詞 一條慎三郎曲 山田道雄・東京セレネーダス合唱団」を所持されている旨述べておられる。

これは、上記（補説 1）「平成 19 年 12 月のヤフーオークション」のもの及び（補説 2）HP「音願指針蓄音機 S P レコード骨董辺境の旅」掲載のものと同物である可能性が強い。

〈 http://www.moviecaster.net/movie_ranking3.php?id=11&s_id=91&rank=37&o=2 〉

（平成 24 年 1 月 21 日現在では無効。現在では下記のものか。

〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29542875.html>〉）

また、同時に、同じ「tony」氏により、上記「パーロホン NO.E1939 1932 年 11 月発売 B 面「蕃界警備壯夫の歌」本間善庫詞一條慎三郎曲山田道雄・東京セレネーダス合唱団」も、「MOVIE CASTER」（ムービーキャスター）収録された。

〈 http://www.moviecaster.net/movie_ranking3.php?id=11&s_id=91&rank=40&o=2 〉

（平成 24 年 1 月 21 日現在では無効。現在では下記のものか。

〈<http://blogs.yahoo.co.jp/axttony/29543479.html>〉

（補説 4）

「台湾警察歌」検討文献抄

（平成 26 年 7 月 5 日新設追加）

（本（補説 4）は、従前「2 澤村胡夷作詞の経緯」末尾及び「補説 1」中「台湾警察歌」は、澤村最後の詩作（同氏は昭和 5 年 5 月 23 日逝去）ともいうべきものであり、その意味で、今後更に研究されてよいものと思われる。」に付していた註記を独立させたものである。）

・「台湾警察歌」は、その後、大嶋知子（花輪知子）氏「『紅もゆる』の詩人沢村胡夷」（平成 14 年 9 月 18 日講演、『紅萌抄』別冊（平成 15 年 3 月 (?) 刊）に収録。）16、17 頁、海堀昶氏（当時三高同窓会常勤理事）「澤村胡夷作詞の歌新発見台湾警察歌」（三高同窓会『会報』第 97 号（平成 15 年 3 月 31 日刊）10、11 頁及び高島俊男氏『百年のことばお言葉ですが…⑧』（文藝春秋、平成 16 年 2 月 25 日刊）258 頁等で紹介された。なお、同歌の曲については、台湾の HP「古い記憶のメロディ」〈<http://www.geocities.jp/abm168/>〉参照。（以下平成 20 年 1 月 31 日追加）同歌レコードは下記（補説 1）、（補説 2）及び（補説 3）参照。（「更に」以下、平成 24 年 1 月 21 日追加）

・更に、平成 23（2011）年には、下道郁子氏「七大学をめぐる歌 第 3 回「紅もゆる丘の花」（後編）」『U7』第 40 号（学士会、平成 23 年 10 月号、58～63 頁）59、63 頁でも言及された。ちなみに、下道氏「紅もゆる丘の花」（前編）は『U7』第 39 号（学士会、平成 23 年 8 月号）64～68 頁所収である。なお、同稿の紹介に関して下記アドレスを参照。

〈http://www.funaiyukio.com/funa_ima/index.asp?dno=201111007〉

（下記「その後」以下、平成 26 年 7 月 5 日追加）

・その後出た下道郁子氏「七大学をめぐる歌—その魅力と音楽的特徴—」『U7』第 59 号（学

士会、平成 25 年 9 月号) 31～41 頁は、「台湾警察歌」とは直接には関係ないが必読文献である。同氏は、平成 26 (2014) 年に入り、「台湾警察歌と澤村胡夷」(前編:『台湾協会報』第 714 号(平成 26 年 3 月 15 日刊)、後編: 同第 715 号(平成 26 年 4 月 15 日刊)) が公表された。音楽専門家による初の「台湾警察歌論」であり、貴重である。

(下記「平成 26 (2014) 年夏」以下、平成 26 年 9 月 9 日追加)

・平成 26 (2014) 年夏刊行の『鷺巣敦哉著作集 補遺 警察試験叢書(続)・雑誌所収著作補遺(続)・索引』(緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊) 解説中「参考資料 1 台湾警察歌」(297～300 頁) で、この時点での本稿大要を収録した。

(補説 5)

「台湾警察歌」収載 CD 関係記事

(平成 28 年 4 月 3 日新設追加)

平成 28 (2016) 年 3 月 28 日たまたま別件で指導を受けしる著名日本統治期台湾文学史専門家から、下記 CD セットに「台湾警察歌」が入っている旨の教示を受けた。

・朱家煌責任編輯『日治時期台湾島民歌謡選輯』(高雄市・克朗德美術館、2011 年 9 月刊) (<http://crownedmuseum.blogspot.jp/2011/08/blog-post.html>)

寔に貴重な情報であることから、ただちに知人に上記高雄市・克朗德美術館に問い合わせさせていただいたところ、既に絶版であるが近々再刊を検討中とのことであった(「朱家煌醫師編輯、克朗德美術館發行之《日治時期台灣島民歌謡選輯》已經絶版。該館計畫於不久之將來、重新改版發行。」。早き再刊を期待したい。ここでは取り敢えずこのことのみを記載しておく。上記両氏に対し、厚く御礼申し上げるものである。

(追記) 平成 29 (2017) 年 8 月上記専門家から当該 CD を借用でき、かつ、同年 9 月 15 日には同解説本を見せていただいた。「13 台湾警察歌」は 31～32 頁に掲載されているが、それには中文訳も収録されているので、参考までに以下に転載しておくこととする。(平成 29 (2017) 年 9 月 20 日追加)

臺灣警察歌 (中文訳)

(1)

煙雲籠罩的新高山，
由山嶺的威靈所守護，
正義的姿態如巨巖聳立，
我們走出善惡分明之路。

(2)

四季都是翠綠的顏色，

身懷仁慈的真誠，
為了教化別族異種，
負起治安保護的勤務。

(3)

蕃雲陰暗月落下，
在山溝小徑中迂迴前進，
回歸線的烈陽焦曬，
忍受難耐的高熱。

(4)

疫癘橫行的熱帶國土，
黎民百姓防疫無術，
挺身揭起防疫的大旗。

(5)

在人心不古的亂世中，
高舉純淨至誠的明燈，
照耀南海，
我們是和平的公務員。

(附錄) 本 HP 掲載「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」等関係諸稿

* 本 HP 掲載の日本統治下台湾関係歌稿としては、下記の諸稿がある。

・「澤村胡夷と台湾警察歌—日本統治下台湾警察史の一齣—」(本稿)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sawamura001.pdf>〉

・「「台湾警察歌」の作曲者一條慎三郎氏の御業績を巡って— 一條元美氏の御長逝を悼みて—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/ichijo001.pdf>〉

・「『鷺巣敦哉著作集 補遺』(緑蔭書房、平成 26 年 7 月 31 日刊) 概要」(「台湾警察歌」関係あり。)

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/washisu003.pdf>〉

・「台湾総督府警察官及司獄官練習所歌覚書—「椰子の実みのる」及び「彩雲めぐる」をめぐって— 日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/reishushouta.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayun001.pdf>〉

・「「サヨンの鐘」関係文献抄一本 HP 別稿「「サヨンの鐘」によせて—「サヨンの鐘」資料一斑—」参考資料—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/sayunbunken.pdf>〉

・「再び澤村胡夷作詞「台湾警察歌」及び「サヨンの鐘」について—日本統治下台湾警察史の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/futatabi.pdf>〉

・「佐塚佐和子歌「蕃社の娘」及び「思い出の蕃山」覚書」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/satsuka.pdf>〉

・「「台湾軍の歌」覚書—日本統治下台湾諸歌の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/taiwangunka.pdf>〉

・「ネット等に聴く戦前期の台湾歌謡曲—「雨夜花」と「サヨンの鐘」を中心に—」—日本統治下台湾諸歌の一齣—」

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/netkayo.pdf>〉

・台北帝国大学予科「逍遥歌 高砂周遊の歌」関係資料一斑

〈<https://home.hiroshima-u.ac.jp/tatyoshi/shoyoka001.pdf>〉

(了)